

令和 7 年県議会 6 月定例会

農 林 水 産 委 員 会

農 林 水 産 部 長 説 明 要 旨

農 林 水 産 部

農林水産部長説明要旨

6月24日(火)10時～

第4委員会室

おはようございます、農林水産部長の川尾でございます。

委員の皆様方には、日頃から農林水産行政の推進にあたり、格別のご理解とご指導を賜り、厚く御礼を申し上げます。

続きまして、本日出席しております職員を紹介させていただきます。

技監 森林林業局長 事務取扱

おがわ やすのり
小川 泰典

です。

農林水産政策局長

かわむらみのる
川村 実

です。

農業生産局長

しおじ ひろあき
塩路 宏明

です。

水産局長

かきうち よしゆき
垣内 良之

です。

県参事 農業農村整備課長 事務取扱

みのざわ まさお
箕澤 正夫

です。

県参事 畜産課長 事務取扱

とよし まさなり
豊吉 正成

です。

(農林水産政策局)

農林水産振興課長

やまがた としゆき
山縣 俊之

です。

里地里山振興室長

う え だ よしひと
植田 栄仁

です。

研究推進課長

しま 島 こうじ 浩二 です。

食品流通課長

おおいし 大石 たかし 崇 です。

(農業生産局)
果樹園芸課長

なか 仲 まさのり 真永 です。

鳥獣害対策課長

みつさだ 光定 のぶあき 伸晃 です。

経営支援課 副課長

みやむかい 宮 向 かつのり 克則 です。

(森林林業局)
林業振興課長

たにぐち 谷口 たかとし 隆俊 です。

森林整備課長

おおた 太田 かずき 和樹 です。

全国育樹祭推進室長

にし 西 やよい 弥生 です。

(水産局)
水産振興課長

きしうら 岸裏 まさのぶ 真延 です。

資源管理課長

しまむら 島村 とおる 亨 です。

以上でございます。以降、着座にて説明をさせていただきます。

はじめに、4月6日から15日にかけて、紀南地方を中心に4回の
こうひょう 降雹があり、約48億1千万円の被害が発生いたしました。

県では、被害が甚大であることに加え、２年連続の大きな被災となったことから、被害を受けられた方の経営維持に向けた特別融資や被害果実の消費拡大の取組への支援を行っているところです。

さらに、新たな予算措置等について国への要望活動を行うとともに、今回被害を受けられた農業者の皆様の離農を防ぎ、意欲をもって次期作に取り組んでいただけるよう、追加の支援策に必要な経費について、補正予算案として今期定例会に上程させていただいております。

それでは、議案等の説明に先立ちまして、農林水産部における主な取組等について、ご説明を申し上げます。

（世界農業遺産認定取得に向けた取組）

まず、世界農業遺産の認定を目指す有田・下津地域のみかんシステムについては、国連のＦＡＯが設置する世界農業遺産科学助言グループによる現地調査が確定し、準備を進めているところです。

今後、地元での認知度や盛り上がりが重要となりますので、引き続き関係者と一体となって認定に向けて全力で取り組んでまいります。

（スマート農業の推進）

次に、スマート農業の推進については、農業用ドローンや自走可能な草刈機、電動運搬車等のスマート農機の実演会を３月にもも、かき、かんきつの生産者を対象に３地域で開催し、延べ１５７名の参加がありました。

また、本年度から果樹、野菜の防除作業の省力化を進めるため、県単独事業で作業受託組織が取り組むドローンの請負防除のための技能認定取得を支援することとしております。

引き続き、本県農業の省力化や収益性向上のために、スマート農業の推進に取り組んでまいります。

（販売促進アクションプログラム）

次に、農林水産物の販売促進については、現在開催中の「大阪・関西万博」において、4月30日から5月3日まで開催された和歌山ウィーク「^{ワオ}Wow! ^{わかやま}Wakayama!」～未来へつなぐ、おどろきの国～」に和歌山県食品産業協議会ブースを出展し、和歌山が誇る豊かで健康的な食文化について試飲、試食、販売を通じてPRいたしました。4日間で延べ45,850名の方々に来場いただき、和歌山県自慢の梅加工品、醤油、金山寺味噌、熊野牛、伝統的な菓子やこめ油などについて広く国内外に発信することができました。

今後も、10月まで開催される「大阪・関西万博」を和歌山県産品の魅力を発信する絶好の機会と捉え、会場でのプロモーションはもとより、「国内市場での販売促進強化」、「海外市場における販路開拓強化」、「生産者・事業者への支援」の3つの柱を軸とした幅広い支援策を展開し、県産品の更なる販売促進に努めてまいります。

（主要果樹の生産販売状況）

次に、うめの生産量については、開花期の天候不順により、みつばちの活動期間が短く受粉不良となったことが影響し、平年比79%の4万5千トン程度を見込んでおります。また、4月6日から15日にかけて4回の降^{こうひょう}雹があり、秀品率の低下が見られております。

青うめの販売状況については、6月13日現在の系統扱いの出荷量は前年比98%の2,345トン、市場価格は前年比109%の1kg当たり894円となっております。

ももについては、露地ももの市場取引が6月9日から始まっており、本年産の生産量は、前年比107%の6,130トン程度を見込んでおります。

今後も、JA等関係機関と連携しながら、高品質果実の安定生産を推進し、高単価販売を目指してまいります。

（クビアカツヤカミキリ対策）

次に、クビアカツヤカミキリについては、紀北及び紀中の15市町で被害が確認されるなど、より深刻さが増しております。

被害の拡大を食い止めるには、早期発見と駆除が重要であるため、引き続き発生調査やメディアを通じた県民への啓発を行うとともに、生産者に対する技術指導や被害樹の伐採などへの支援に取り組んでまいります。

また、今年度から御坊市において、総合的な防除対策の効果を確認するためのモデル実証を行うこととしております。

（鳥獣害対策）

次に、鳥獣害対策については、現場で専門的な知識をもってサポートいただける人材を育成することを目的として、「農作物鳥獣害対策アドバイザー」養成研修を来月8日から5回にわたり実施します。

また、来月より狩猟免許試験を県内4会場で計5回実施することとしており、引き続き、鳥獣害対策に必要な人材の確保・育成と併せて、新たな捕獲方法の検討や防護対策に積極的に取り組んでまいります。

（県産畜産物の需要拡大）

次に、県産畜産物の需要拡大については、近年の飼料価格の高騰、

高止まりを受け、県では令和４年度から畜産農家への支援を行ってまいりましたが、今年度からは県産畜産物の需要を拡大し、生産物価格の回復を図るため、畜産物の品質向上及び販売促進に関する施策を新たに開始し、特に、経営的影響の大きい和牛については、生産から流通、販売に至る各段階における総合的な支援策を実施しております。

（家畜伝染病の対応）

次に、家畜伝染病である豚熱については、今年度に入り、６月２０日時点で野生いのししの豚熱陽性個体が紀の川市で１頭、橋本市で３頭確認されています。また４月４日及び５月９日に群馬県の養豚場において豚熱が発生していることから、現在、県内の全ての養豚場に対し、衛生管理を徹底指導しているところであり、今後とも、家畜伝染病の監視強化に万全を期してまいります。

（農地流動化対策）

次に、農地流動化対策については、農地中間管理機構による農地の貸借を進めた結果、令和６年度の実績は、対前年比１０５％の３４１ｈａとなっています。また、本年４月から農業経営基盤強化促進法の一部改正により、農地の貸借については、原則、農地中間管理機構に一本化されております。

引き続き、市町村等関係機関との連携を密にし、農地の流動化を強力に推進してまいります。

（担い手の確保）

次に、新規就農者の確保については、県内外で就農相談会を開催してきた結果、令和６年度の新規就農者は１４７名となっております。

また、昨年度から実施している国の支援対象となっていない親元就農者等への県独自支援の実績は、１１市町、２６名となっております。今後とも関係機関と連携し、担い手確保に積極的に取り組んでまいります。

（紀州材の需要拡大）

次に、紀州材の需要拡大については、４月に千葉県の東京中央木材市場で開催された紀州材展への出展支援により、紀州材の魅力を発信するとともに、５月には、非住宅建築物の木造化を推進するため、建築士や工務店などを対象に、約８０名の参加のもと講演会を開催し、防耐火や遮音に対する知識の向上を図りました。

今後とも、大都市圏でのＰＲや非住宅建築物での需要拡大に取り組んでまいります。

（企業の森）

次に、「企業の森」については、５月８日に新中村化学工業株式会社と、６月２日に株式会社サンコーと、さらに６月３日には、ザ・パック株式会社及び特定非営利活動法人地球と未来の環境基金と、それぞれ調印式を行ったところです。これにより活動箇所は１１７箇所になりました。引き続き推進に努めてまいります。

（わかやま^{しんりん}森林と樹木の日）

次に、５月２４日には新宮市の熊野川ドームにおいて、「わかやま^{しんりん}森林と樹木の日」の記念行事を開催し、和歌山県緑化功労賞の授与や記念植樹などを行いました。雨の中、式典にご出席頂きました議員各位に御礼申し上げるとともに、今後も県民の皆様とともに、和歌山の^{しんりん}森林や樹木を守り育て、未来に引き継いでいけるように取

り組んでまいります。

（全国育樹祭基本計画の策定）

次に、第４９回全国育樹祭については、式典行事等の内容や規模、運営体制などを示した基本計画を３月２６日に策定しました。

今後、基本計画に基づく機運醸成など、全国育樹祭の成功に向け取り組んでまいります。

（水産業の振興）

次に、水産業においては、沿岸漁業の再生を目指した漁場整備や浮魚礁の増設、的確な資源管理、種苗放流等の栽培漁業の推進により、水産資源の持続的な利用を図ってまいります。

また、スマート水産業や複合経営の推進による漁家^{ぎょか}の収益向上、新たな担い手育成支援の充実、海業^{うみぎょう}の展開を支援することにより、活力ある漁村づくりに取り組んでまいります。

なお、海業^{うみぎょう}の支援に係る地元要望に対応できるよう、追加の支援策に必要な経費について、補正予算案として今期定例会に上程させていただきます。

（かつおの漁獲状況）

最後に、県内の漁獲状況ですが、かつおについては４月下旬より、熊野灘、紀伊水道で良好な漁場が形成され、順調な漁獲が続いています。田辺、すさみ、串本の主要３漁港で４月１３７トン、５月３５１トンと平年を上回る水揚げとなっております。今後は、ハネ釣り漁主体の操業となり、県南部海域に設置した表層型浮魚礁周辺での漁場形成が期待されます。県としましても、効率的な操業を行うために必要な水温情報等を発信し、漁業者の支援を行ってまいります。

【付託案件】

続きまして、ご審議いただきます案件等について、ご説明いたします。

まず最初に、和歌山県議会議案 1 ページをご覧ください。

議案第 1 0 2 号、「令和 7 年度和歌山県一般会計補正予算」のうち、農林水産部関係といたしまして、第 6 款 農林水産業費で 3 9 5 万 6 千円の増額をお願いしております。

内容につきましては、補正予算説明書に基づき、ご説明いたします。補正予算説明書「出」 3 ページをご覧ください。

第 6 款「農林水産業費」、第 5 項「水産業費」、第 2 目「水産業振興費」で、3 9 5 万 6 千円の増額をお願いしております。内容としましては、市町を対象に、^{うみぎょう}海業の事業化に向けた調査に係る経費を支援するために増額するものでございます。

続きまして、追加議案 1 ページをご覧ください。

議案第 1 1 1 号、「令和 7 年度和歌山県一般会計補正予算」のうち、農林水産部関係といたしまして、第 6 款 農林水産業費で 1 億 7 9 9 万 9 千円の増額をお願いしております。

内容につきましては、補正予算説明書（追加）に基づき、ご説明いたします。補正予算説明書「出」 3 ページをご覧ください。

第 6 款「農林水産業費」、第 1 項「農業費」、第 4 目「農業振興費」で、1 億 7 9 9 万 9 千円の増額をお願いしております。内容としましては、^{こうひょう}降雹被害を受けたうめ農家を対象に、肥料購入費用の一部を支援するために増額するものです。

続いて、諸報第 3 4 号「令和 6 年度予算の繰越使用報告について」、繰越使用報告書の 3 ページをお開きください。第 6 款「農林水産業費」の翌年度繰越額 6 4 億 7, 2 2 2 万 6, 0 6 3 円のうち、農林水産部所管の繰越額は 4 6 億 6, 6 7 5 万 6 5 9 円で、

その内訳を項別でみると、

第 1 項「農業費」	2 億 2, 9 0 0 万	円、
第 3 項「農地費」	3 2 億 3, 6 1 0 万 2, 4 2 7 円、	
第 4 項「林業費」	9 億 1, 5 0 7 万	9 3 2 円、
第 5 項「水産業費」	2 億 5, 6 8 6 万 7, 0 0 0 円、	
第 6 項「研究推進費」	2, 9 7 1 万	3 0 0 円

となっております。

また、12 ページの第 1 1 款「災害復旧費」、第 1 項「農林水産施設災害復旧費」の翌年度繰越額は、4 億 9 2 2 万 8, 5 0 3 円となっております。

これらは、工法変更や地元調整等で工事が遅延したことにより、予算の繰越を行ったものです。

以上が今期定例会に提案しております議案の概要になります。よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。